

平成29年6月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成29年6月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

先月31日に、八戸三社大祭を主催する八戸三社大祭運営委員会の総会が開かれました。

今年は8月4日の後夜祭まで全て平日の開催となるため、祭りの日程を1日追加し、7月31日～8月5日の6日間開催されることが決定されました。

今年の八戸三社大祭は、ユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録されて初めての開催です。

また、市制施行88周年の節目の年での開催でもあります。

みなさま、いつもと違う三社大祭を見に、ぜひ八戸へお越しください。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 6月号 レポート

平成29年5月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	八戸市「市制施行88周年」ブルーインパルスが88歳を祝う
(2)	沼館に津波防災センター完成
(3)	2020年スピードスケート選手権 候補地にライバル有力都市が続々と名乗り
(4)	八戸ブックセンター 5カ月で来館者9万人超
(5)	ユートリー 八戸三社大祭の展示山車を一新へ
(6)	八戸市 初のスポーツ大使 3チームに委嘱
(7)	八戸市 青森県内初の「飲酒運転撲滅条例」制定へ
(8)	種差海岸インフォメーションセンター 来館者50万人突破
(9)	内閣府 八戸に出先拠点を試験設置

## 【地域】

記事	概要
(10)	八戸の詩人・村次郎の研究誌発刊へ
(11)	「未来の科学の夢絵画展」 類家君（柏崎小1年）が優秀賞
(12)	トレッキング企画「種差海岸をガイドさんと歩こう」スタート
(13)	八高専 英検合格者が全国高専で最多の231人
(14)	種差天然芝生地で「種差朝ヨガ」今シーズンも開催
(15)	プロの料理人が園児向けに食育事業
(16)	大型客船「ばしふいっくびいなす」八戸港に寄港
(17)	都内移住相談拠点利用者2016年度実績 青森移住へ25組46人
(18)	蕪島でウミネコのふ化始まる

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	武術太極拳ジュニア全国大会 石橋さん（八戸武術クラブ）が2種目制覇
(20)	“フォークの神様”岡林信康さん 31年ぶりに弾き語りライブ
(21)	八戸うみねこマラソン開催 ～潮騒路 6062人駆ける～
(22)	喜多郎さん、坂本サトルさんとコンサート開催へ ～八戸市民の新たな祭りに～
(23)	八戸第二養護学校教諭の小野さん 車椅子バスケの国際審判資格を取得
(24)	八戸三社大祭 日程を1日追加し今年は6日間に

記事	概要
(1)	<p><b>八戸市「市制施行88周年」 ブルーインパルスが88歳を祝う</b></p> <p>市名に「八」の字がつく八戸市は5月1日、市制施行88周年を迎えた。記念行事として、航空自衛隊松島基地所属の「ブルーインパルス」による展示飛行と陸・海・空自衛隊音楽隊合同コンサートが行われた。市庁前広場で行われたコンサートの開幕セレモニーで小林眞市長は「八戸市は昭和4年の誕生以来、市民の八戸を愛する情熱に支えられて発展してきた。節目の年を市民とともにお祝いできることをうれしく思う」とあいさつ。陸自八戸駐屯地隊員が陣太鼓を景気よく披露した。多くの市民がアクロバット飛行や演奏を楽しみ、市の「88歳」をにぎやかに祝った。</p>
(2)	<p><b>沼館に津波防災センター完成</b></p> <p>八戸市が沼館地区に整備を進めていた「津波防災センター」の完成を祝う式典が5月1日、現地で行われた。同センターは八戸港の工業港から南側の内陸へ約500メートル入った市有地に、2014年度から総事業費約6億円をかけて整備された。同地区は、最大クラスの津波が起きた場合に浸水深が6.96メートルに達すると想定されているが、同センターの避難スペースとなる2階床面は10.96メートルと、4メートル高い。屋上を含めた避難者の収容人数は877人。市が東日本大震災の津波被害などを受けて進めてきた避難施設整備は同センター完成で一区切りとなる。</p>
(3)	<p><b>2020年スピードスケート選手権 候補地にライバル有力都市が続々と名乗り</b></p> <p>八戸市が2019年秋の供用開始を目指す市立屋内スケート場で、こけら落としとして2020年2～3月に予定する世界オールラウンドスピードスケート選手権（世界選手権）の開催が不透明さを増している。候補地争いは八戸とベラルーシ・ミンスクとの一騎打ちと見込まれていたが、ドイツ・ベルリンやイタリア・トリノなど有力都市が次々と名乗りを上げ、6都市による混戦模様に一変。開催地レースが一気に過熱したのは、国際連盟が世界選手権と世界スプリント選手権の2大会統合を検討し始めたのが要因。市は5月2日、日本スケート連盟の橋本聖子会長に改めて実現への協力を要請した。※6月4日の国際スケート連盟理事会において、開催地はノルウェーのハーマルに決まった。</p>
(4)	<p><b>八戸ブックセンター 5カ月で来館者9万人超</b></p> <p>八戸市が運営する書店「八戸ブックセンター」が昨年12月にオープンしてから5月4日で5カ月を迎えた。自然や人文など13テーマに沿って約8千冊の本が並ぶ同センターにはこれまで9万7千人が訪れ、5700冊の本を買い求めた。来館者の多くは特定のテーマに偏りなく本を手にする一方、写真や図解で特定のテーマを手軽に一覧できる図鑑を買い求める傾向があるという。担当者は「本の世界へ市民をいざなう場所という当初の目的に沿う施設になってきた」と語る。</p>
(5)	<p><b>ユートリー 八戸三社大祭の展示山車を一新へ</b></p> <p>八戸市は本年度、八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）に飾っている八戸三社大祭の山車をリニューアルする。新たな山車は本物のサイズの約5分の1の「ミニ山車」とするが、せり上がりの仕掛けなどが動くようにし、臨場感たっぷりに祭りの魅力を伝える。同大祭の山車行事が昨年12月、17府県32件の祭りとともにユネスコの無形文化遺産に登録されたことを受けたPR事業の一環。リニューアルではミニ山車を飾るほかに、行列の様子を再現。また、囃子と仕掛けを連動させるなどし、より三社大祭らしい雰囲気を与えられるようにする。11月ごろには現在の山車の解体を行い、年度内に展示替えを完了させる予定。</p>

(6)	<p><b>八戸市 初のスポーツ大使 3チームに委嘱</b></p> <p>八戸市は5月11日、同市を拠点に活動しているアイスホッケーの「東北フリーブレイズ」、サッカーの「ヴァンラーレ八戸フットボールクラブ」、バスケットボールの「青森ワッツ」の3チームを本年度創設した「市スポーツ大使」に委嘱した。各チームは同市の魅力発信や、児童生徒をはじめ市民へのスポーツ指導などに協力し、市のスポーツのまちづくりをサポートする。大使制度は、市の魅力をPRしイメージアップを図るとともに、市民の郷土への愛着と誇りを育むことを目的に創設され、大使の委嘱は今回が初めてとなる。</p>
(7)	<p><b>八戸市 青森県内初の「飲酒運転撲滅条例」制定へ</b></p> <p>悪質な飲酒運転の撲滅に向け、八戸市は「飲酒運転を根絶するための社会環境づくり条例」を制定する方針を決めた。八戸署管内の飲酒運転摘発件数は1993年から24年連続で県内最多と深刻な状況が続いており、交通安全関係者らが条例制定を要望していた。市や市民、事業者が果たすべき責務などを盛る理念条例とする方向。6月定例会市議会に提案予定で、市によると、可決されれば同種の条例は県内初となる見込み。</p>
(8)	<p><b>種差海岸インフォメーションセンター 来館者50万人突破</b></p> <p>種差海岸インフォメーションセンターの来館者数が5月20日、50万人を突破した。施設は、三陸復興国立公園の種差海岸天然芝生地を臨む場所にあり、国立公園や「みちのく潮風トレイル」などの情報を発信する拠点となっている。国立公園指定から約1年後の2014年7月に開館。昨年7月には40万人に到達した。節目の来館者になったのは、八戸市の村田洋平さんとその家族。村田さんは「天気の良い日は家族で種差をよく訪れている。今日は突然のことでびっくりした」と思いがけない幸運に笑顔を見せた。</p>
(9)	<p><b>内閣府 八戸に出先拠点を試験設置</b></p> <p>内閣府は30日、八戸市のユートリーに小規模なサテライトオフィス（出先拠点）を試験的に設置すると発表した。6月19日から30日までの12日間、職員10人程度が滞在。周辺市町村を巡回して地方の実態を把握し、地方創生推進交付金を活用した各事業の制度設計に役立てるほか、中央の業務の一部を出先で行うことができないか実証実験を行い、出先拠点の地方設置の可能性を探る。期間中、内閣府と市町村の職員が意見交換会を行う予定で、支援の在り方を模索する国に対し、地方がどのような提案ができるのかも注目される。</p>

**【地域】**

記事	概要
(10)	<p><b>八戸の詩人・村次郎の研究誌発刊へ</b></p> <p>青森県内外の多くの文人と交流があった八戸市出身の詩人・村次郎（1916～97年、本名・石田寛）の足跡をあらゆる角度からひもとこうと、市内の有志でつくる「村次郎の会」（上條勝芳代表）が、研究誌「『風の軌跡 村次郎』通信」の発刊準備を進めている。村を知る人物への聞き取りや書簡類を分析してまとめることで、魅力あふれる人間性を後世に語り継ぎたい考えだ。事務局の関係者は「生前の村さんを知る人は地域の中でも年々減り、このままでは忘れ去られてしまう。郷土の人みんなに知ってもらおうきっかけになれば」と思いを強くする。</p>

(11)	<p><b>「未来の科学の夢絵画展」 類家君（柏崎小1年）が優秀賞</b></p> <p>発明協会（東京都）が主催するコンクール「第39回未来の科学の夢絵画展」の幼稚園・保育園の部で、八戸市立柏崎小1年の類家丈時君が優秀賞に、市立吹上小1年の酒井陽花乃さんが奨励賞に輝いた。作品は2人が八戸市の千葉幼稚園年長だった昨年描いたもの。同部門には、全国から1720点の応募があり、特別賞1点、優秀賞5点、奨励賞40点が選ばれた。絵画展は、子どもたちに科学への関心を持ってもらおうと毎年行われている。</p>
(12)	<p><b>トレッキング企画「種差海岸をガイドさんと歩こう」スタート</b></p> <p>気軽に参加できるトレッキング企画「種差海岸をガイドさんと歩こう」が5月3日にスタートした。9月までの毎週土曜日、1回500円で地元ガイドの解説を聞きながら種差海岸を散策することができる。初日は市内の女性4人が、蕪島から葦毛崎展望台までの約2.5キロで爽やかな汗を流した。参加した女性は「解説があると見方が変わる。また参加したい」と満足げだった。設定しているコースは、開催日によって異なり、天然芝生地や淀の松原、中須賀など7コース。先着10人で申し込み不要だが、事前予約もできる。荒天時は中止となる。</p>
(13)	<p><b>八高専 英検合格者が全国高専で最多の231人</b></p> <p>八戸工業高等専門学校が、2016年度の英検合格者が全国の高専で最も多かったとして、日本英語検定協会から文部科学大臣賞を初めて受賞した。同校では16年度、過去最高となる231人が英検1級～3級に合格した。世界で活躍できるエンジニアを育てる狙いで受検対策に取り組む一方、英語を生かしたコミュニケーション力の向上を重視。インターネットを活用した英会話、海外研修、外国人による授業など、多くのプログラムを導入している。指導に当たった教授は「英検はあくまでも目安。英語でコミュニケーションが取れるように今後も指導していきたい」と話している。</p>
(14)	<p><b>種差天然芝生地で「種差朝ヨガ」今シーズンも開催</b></p> <p>種差海岸の種差天然芝生地を会場にしたヨガ体験会「種差朝ヨガ」が今シーズンも開催される。朝ヨガは2014年、八戸観光コンベンション協会が企画した種差海岸のモニターツアー内のイベントとして行われ、翌15年からは種差海岸を元気にしたいという思いで集まった住民でつくる「種差あねっこ」が同協会と共催している。15年は998人、16年は1247人と参加が増えており、あねっこは「種差海岸を訪れるリピーター獲得のきっかけづくりと活性化を目指して今後も継続開催したい」としている。9月30日まで毎週土曜日開催。料金は1回500円。</p>
(15)	<p><b>プロの料理人が園児向けに食育事業</b></p> <p>八戸、青森両市の料理店でつくる「八戸日本料理業芽生（めばえ）会」（野呂裕人会長）は18日、料理人による食育事業「すきらい克服プロジェクト」を開いた。同会は、料理人が作る料理を通して食材のおいしさを知ってもらい、子どもたちの好き嫌いをなくそうと、3年前から同事業に取り組んでいる。この日は八戸学院聖アンナ幼稚園の園児約40人が、だしを効かせた野菜たっぷりの昼食を味わった。昆布とかつお節のだしを使った、ニンジンやシイタケ、ミニトマトなどの野菜の炊き合わせや、炊き込みご飯など、園児たちはだしのうま味が染み込んだ野菜を次々と口に運んでいた。</p>

(16)	<p><b>大型客船「ばしふいっぴいなす」 八戸港に寄港</b></p> <p>日本クルーズ客船の大型客船「ばしふいっぴいなす」(総トン数2万6594トン)が5月21日、八戸港に寄港した。ツアーで八戸に入港するのは2013年以来。横浜港を発着するプラン「新緑の東北・三陸復興国立公園クルーズ」の一環で、約260人が参加している。この日は、接岸した八太郎4号埠頭P岸壁で歓迎セレモニーが行われ、八戸商業高の吹奏楽部が軽快な演奏を披露。乗船客は各グループに分かれて、種差海岸や十和田湖、奥入瀬溪流、久慈エリアといった景勝地の観光を楽しんだ。</p>
(17)	<p><b>都内移住相談拠点利用者 2016年度実績 青森移住へ25組46人</b></p> <p>「青森暮らしサポートセンター」(東京有楽町)が2016年度実績を発表した。16年度の相談内訳は移住相談372件、就職相談309件。相談者の傾向としては、30代などの子育て世帯やIターン希望者らの割合が増えた。移住先で最も多かったのは青森市の5組10人。次いで八戸市の4組8人、五戸町の3組5人など。移住決定した全25組のうち、Uターンは15組で、Iターンは10組。移住理由のアンケートでは、▽家族の都合や介護▽青森県で仕事がしたいーなどの回答が多かった。相談環境の充実を図る取り組みや魅力PRが実を結び、人数は前年度の約1.8倍となった。</p>
(18)	<p><b>蕪島でウミネコのふ化始まる</b></p> <p>ウミネコの繁殖地として知られる八戸市の蕪島で、かわいいひなたちが続々と産声を上げている。蕪島ウミネコ繁殖地保護監視所によると、島には2月ごろから数万羽が飛来し、4月中旬から産卵が始まった。島の頂上部での産卵は約1700個で、5月16日には今季初めてふ化が確認された。5月末から6月上旬にかけてふ化のピークを迎えるという。ひなは2カ月ほどで飛び立てるようになるが、歩き始めるようになってから外敵に襲われたり、外気の寒さで弱ってしまうため、飛び立つまで順調に成長できるのは全体の2割程度だという。蕪島神社の宮司は「ウミネコは弁天様のお使い。元気に育てほしい」と話している。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(19)	<p><b>武術太極拳ジュニア全国大会 石橋さん(八戸武術クラブ)が2種目制覇</b></p> <p>名古屋市で4月に開催された第25回JOCジュニアオリンピックカップ武術太極拳大会で、八戸武術クラブの石橋結羽(ゆう)さん=青森県立八戸工業高3年=が2種目で自身初の全国大会1位に輝いた。石橋さんは、素手で型を決める「女子長拳A」と、刀を用いた「女子長拳A短器械(刀術)」に出場。結果にこだわらず楽しもうと試合に挑み、一発勝負の緊張をはねのけ実力を発揮、見事栄冠を手にした。</p>
(20)	<p><b>“フォークの神様”岡林信康さん 31年ぶりに弾き語りライブ</b></p> <p>“フォークの神様”として知られる歌手岡林信康さん(70)の弾き語りライブが5月12日、「はっち」シアター2で開かれた。同市でのライブは1986年以来31年ぶり。この日は、青春時代に曲を聴いていたシニア世代を中心に約100人が詰め掛けた。代表曲「山谷ブルース」や「君に捧げるラブ・ソング」など13曲を披露。哀愁漂うメロディーで聴衆を魅了した。</p>

(21)	<p><b>八戸うみねこマラソン開催 ～潮騒路 6062人駆ける～</b></p> <p>「走るあなたが主役です」をスローガンに、第36回八戸うみねこマラソン全国大会が5月14日、八戸水産公社を発着点に開催された。日本陸連公認コースのハーフと10キロを含む4距離を年齢や性別などで区分した計18部門に、全国28都道府県から6062人がエントリー。この日の八戸は、厚い雲が空を覆い、小雨が降る空模様で肌寒い天候だったが、それぞれに天気対策を施したランナーは、雨にも負けず、思い思いにゴールを目指した。</p>
(22)	<p><b>喜多郎さん、坂本サトルさんとコンサート開催へ ～八戸市民の新たな祭りに～</b></p> <p>世界的なキーボード奏者で、グラミー賞受賞者の喜多郎さん(64)と、南部町出身のシンガー・ソングライター坂本サトルさん(50)のコンサートが10月21日、八戸市公会堂で開催されることになった。喜多郎さんは40年以上前、八戸市の青南病院で先進的な芸術療法などに触れながら、1カ月ほど過ごした。昨年、坂本さんと共に八戸を再び訪問。「恩返しをしたい」との思いからコンサートの開催を模索していた。今回のコンサートは、プロの演奏だけでなく、えんぶりなど郷土芸能との共演も検討している。発起人の喜多郎さんは「今の八戸に新たな祭りをつくりたい」と思いを話している。</p>
(23)	<p><b>八戸第二養護学校教諭の小野さん 車椅子バスケの国際審判資格を取得</b></p> <p>青森県立八戸第二養護学校教諭の小野裕樹さん(41)が、国際車椅子バスケットボール連盟公認の国際レフェリー資格を取得した。世界各国の代表がぶつかる国際試合を差配できる、県内では初めて、国内でも8人目という快挙。小野さんは「まだ夢のよう」と喜びつつ、ハイレベルな国際試合を間近で裁く体験を県勢の底上げにつなげたいと意欲を見せる。</p>
(24)	<p><b>八戸三社大祭 日程を1日追加し今年は6日間に</b></p> <p>八戸三社大祭を主催する同大祭運営委員会（大黒裕明会長）は31日に総会を開き、今年の祭り日程を1日追加し7月31日～8月5日の6日間とすることを正式に決めた。5日は「八戸市市制88周年・ユネスコ無形文化遺産登録記念祭」と銘打ち、市庁前広場で山車展示などを行う。記念祭は午後5～8時までで、セレモニーのほか、虎舞や神楽など郷土芸能のステージイベントも行う。7月31日～8月4日は例年通り、前夜祭、お通り、中日、お還り、後夜祭となる。</p>